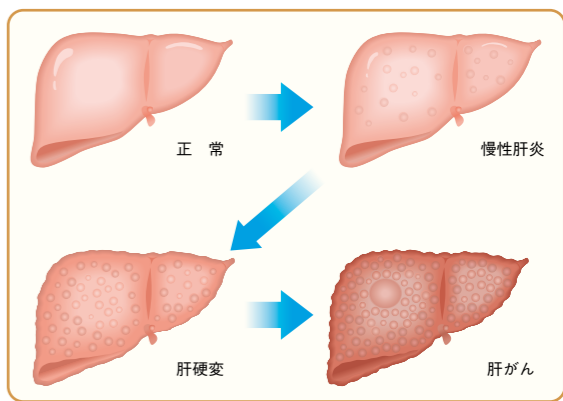


肝臓・すい臓・胆嚢の病気

肝硬変



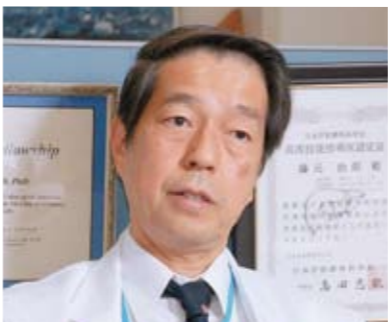
さらに重症になると、黄疸、腹水、浮腫のほか、肝性脳症などの症状が現われる。

肝硬変とは

慢性的な炎症によって肝臓が傷つくこと、それを修復する過程で「線維(コラーゲン)」が肝臓全体に増える。さらに線維で囲まれた「偽小葉」が完成すると肝臓はゴツゴツした硬いビーズ玉の集合体のようになり、小さくなってしまふ。これが肝硬変だ。初期はほとんど無症状で気づかないことが多いが、進行すると全身倦怠感や食欲不振、

肝硬変でも長生きするためには

肝硬変は、死亡率が高い病気として恐れられてきた。しかし、「最近では早い段階で診断ができるようになったこと、肝硬変の合併症に対する治療が進歩したこと、抗ウイルス療法のように肝硬変の原因療法が可能となったことから、肝硬変でも長生きできるようになりました」と、内科肝・胆・膵科の西

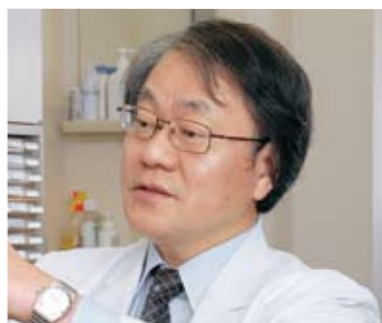


肝・胆・膵外科
藤元 利朗 主任教授

このシステムを使用すれば、手術前に肝臓の形や大きさ、がんの位置などがわかり、どの部分をどれだけ切除するかシミュレーションができる。この技術は、厚生労働省の先進医療として認定され、他の病院にも広がりがつつある。

タイプによっては完治する

「以前は、一度肝硬変になってしまつと元には戻らないと考えられてきましたが、一部の肝硬変は完治します」と西口主任教授。長期にわたる過度のアルコール摂取も肝硬変の原因の一つだが、最も多いのはB型およびC型肝炎などのウイルス性のもので、全



内科 肝・胆・膵科
西口 修平 主任教授

口修平主任教授は話す。

①合併症の治療

肝硬変の3大死因は、食道・胃静脈瘤の破裂、肝不全、そして肝がんだ。

食道・胃静脈瘤は肝臓が硬くなつて門脈と呼ばれる血管の圧力が高くなることにより、食道や胃の細い静脈が痔のように膨らんだもの。破裂すると消化管の中へ大出血を起し、死亡率が高い。現在は、内視鏡により静脈瘤に硬化剤をいれたり(EIS)、ゴムでしばったり(EVL)、放射線科と連携して「バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術(B-RTO)」を行ったりすることで、破裂を予防することが可能となっている。また、肝不全も分岐鎖アミノ酸製剤の治療が有効で

強い連携とネットワーク

千大の穴2つをわき腹に開けて腹腔鏡で摘出するため、手術そのものの患者さんの負担は少ない。手術によって肝機能が改善し血小板も増えるため、インターフェロン治療が可能となる。しかし、術後は細菌感染への抵抗力が弱まるため、肺炎球菌ワクチンなどの対策が必要となる。

「肝疾患の治療においては、内科と外科、放射線科の綿密な連携が欠かせません」。西口主任教授と藤元主任教授は口をそろえる。この2人と、同じく肝臓を専門にしている放射線科の廣田省三主任教授は常時診療を共にしており、「内科、外科、放射線科の連携が非常にしっかりしているのが、兵庫医科大学病院の特徴」と胸を張る。月に一度の3科合同カンファレンスでは、医師を中心にした30~40名のスタッフが集まり、一人ひとりの患者さんの治療について検討するという。

あるため、肝がんが最も大きな死因となっている。

②肝がんの早期発見と治療

肝がんが2センチ以内の大きさなら10年生存率が高いため、肝硬変の患者さんは3ヶ月に一度採血やエコーなどの画像診断を行い、早期発見に努めるべきである。肝がんの治療は、ラジオ波凝固療法(内科)、肝動脈塞栓療法(放射線科)、肝切除術(外科)が、肝臓の大きさや数、肝硬変の程度によって選択される。

肝・胆・膵外科の藤元治朗主任教授は、「肝がんの手術は、肝硬変との闘いです」と語る。肝臓は、健康な状態ならば全体の65%を切り取っても肝機能に問題はなく、1年程度で再生する。しかし、肝硬変が進んだ肝臓では、肝機能が低下しているため、切除できる割合は減ることになる。そのため、肝硬変の度合いを見極め、いかに肝機能を損なわずにがんを切除するかが重要となる。兵庫医科大学病院では、CTの画像から患者さんの肝臓の立体モデルを作成し、切除する部分の重さなどを計算できる「肝臓シミュレーションシステム」を開発してきた。

兵庫医科大学病院は、2008年4月に肝疾患診療連携拠点病院に指定された。同年10月には肝疾患センターを設立。大学内の連携だけではなく、兵庫県下の専門医療機関、協力医療機関、「かかりつけ医」とのネットワークを強化して高度な肝疾患診療体制を確立するとともに、多くの治験や先進的治療を行うなど、常に最先端の治療を目指し努力している。肝疾患センター長でもある西口主任教授は言う。「肝疾患を持つ患者さんが私の目の前に来た時点から、病気を一切進行させないつもりでやっています」。患者さんにとっては、どんなに心強い言葉だろう。

診療実績 (2010年1~12月)	
肝硬変	277件
インターフェロン新規導入 (治験や肝硬変を含む)	144件
内視鏡下食道静脈瘤治療	110件
肝癌治療	
手術	179件
RFA (ラジオ波焼灼療法)	102件
TACE (肝動脈化学塞栓療法)	247件

診療最前線

がん

目・耳・鼻・口の病気

胃・腸・食道の病気

呼吸器の病気

骨・関節の病気

脳・神経の病気

皮膚の病気

肝臓・すい臓・胆嚢の病気

腎臓・泌尿器の病気

循環器と血液の病気

全身の病気

こころの病気

女性の病気

子どもの病気